

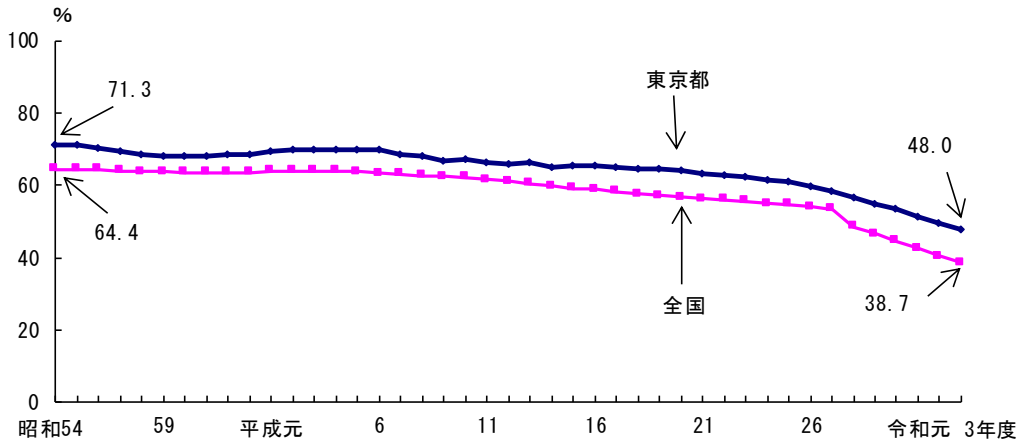
# 【東京都と全国との比較】

## 1 幼稚園

- ① 小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合について、昭和54年度からの推移をみると、東京都の割合はすべての年度で全国を上回っている。
- ② 令和3年度の東京都の割合は48.0%で、全国との差は9.3ポイントとなった。

(全国との比較 図1、付表I 2-3)

全国との比較 図1 小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の割合の比較



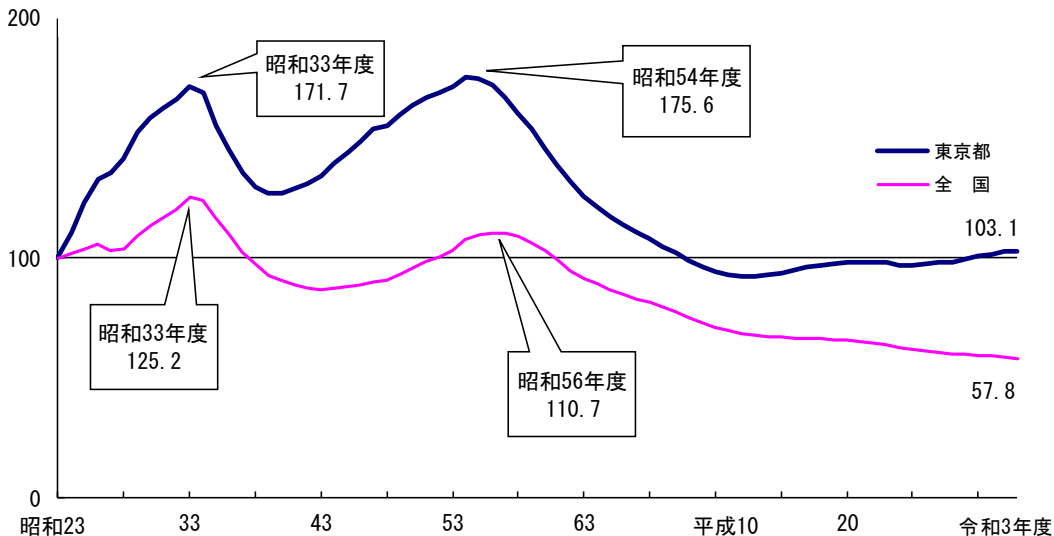
注1) 幼稚園修了者数は各年3月修了者、小学校及び義務教育学校第1学年児童数は各年5月1日在籍者  
 2) 平成27年度以前は、小学校第1学年児童数のみ

## 2 小学校

- ① 小学校児童数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる小学校児童数の東京都のピークは、全国と同じ昭和33年度で171.7となっており、全国の125.2を46.5ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる小学校児童数のピークをみると、東京都は昭和54年度で175.6となっており、全国より2年早くピークを迎えている。
- ③ 令和3年度の東京都の指数は、103.1で、全国との差は45.3ポイントとなった。

(全国との比較 図2、付表I 2-4)

全国との比較 図2 小学校児童数の比較 (昭和23年度 = 指数100)

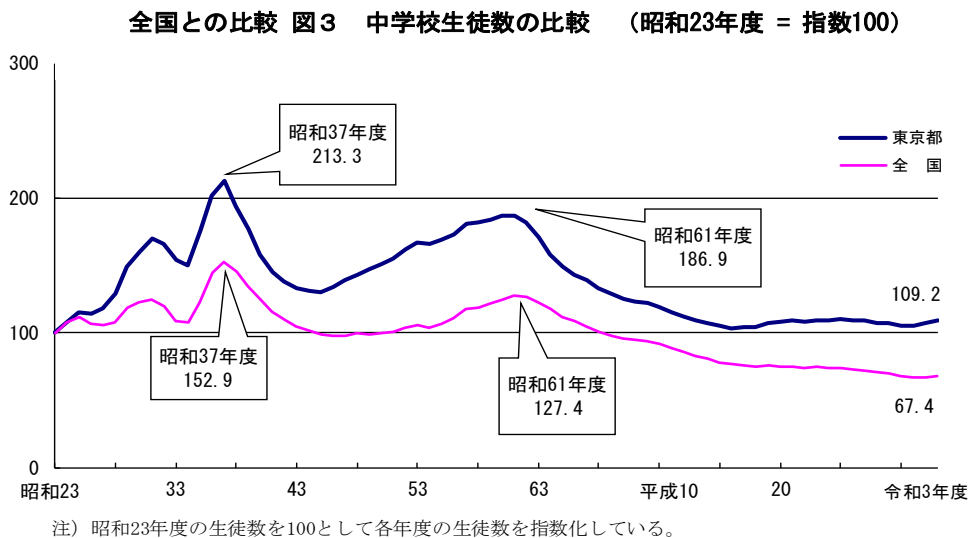


注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の児童数を指数化している。

### 3 中学校

- ① 中学校生徒数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる中学校生徒数の東京都のピークは、全国と同じ昭和37年度で213.3となっており、全国の152.9を60.4ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる中学校生徒数のピークをみると、東京都は全国と同じ昭和61年度で186.9となっており、第1次ベビーブームによる中学校生徒数のピークと比べ26.4ポイント下回っていた。
- ③ 令和3年度の東京都の指数は、109.2で、全国との差は41.8ポイントとなった。

(全国との比較 図3、付表I 2-4)

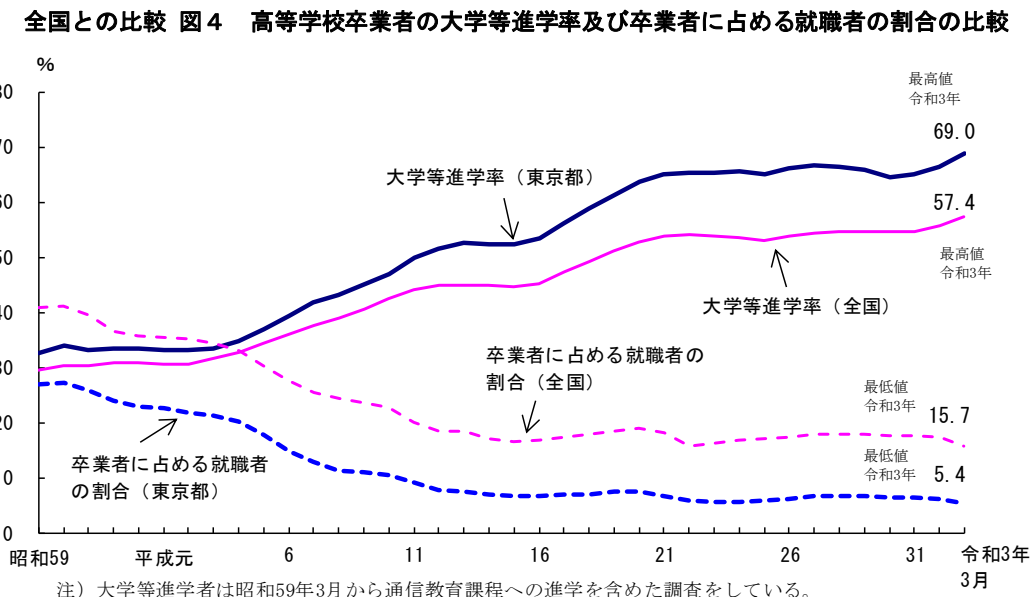


### 4 高等学校 (全日制・定時制)

#### (1) 卒業者の大学等進学率・卒業者に占める就職者の割合の推移

- ① 高等学校 (全日制・定時制) 卒業者の大学等進学率をみると、東京都は平成27年3月以降低下していたが、平成31年3月から上昇に転じ、令和3年3月は69.0%で最も高くなった。全国も令和3年3月の57.4%が最も高くなっている。令和3年3月の東京都の大学等進学率は全国を11.6ポイント上回った。
- ② 卒業者に占める就職者の割合をみると、東京都、全国ともに令和3年3月が最も低く、東京都は5.4%、全国は15.7%となった。令和3年3月の東京都の就職者の割合は全国を10.3ポイント下回った。

(全国との比較 図4、付表I 2-2、2-7)



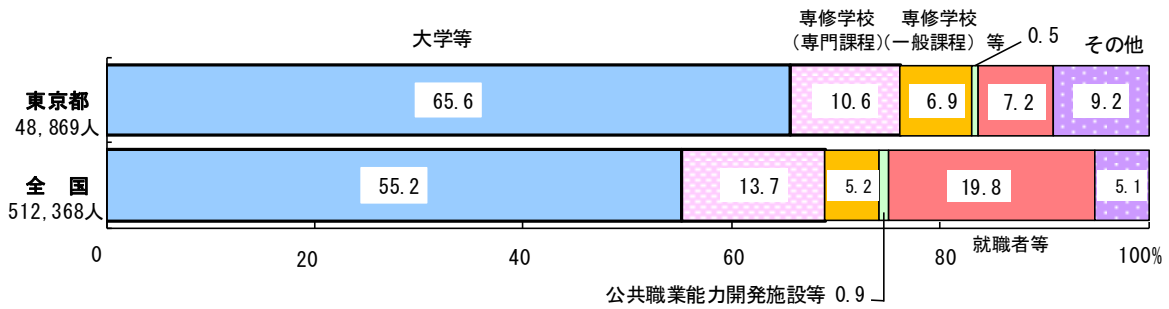
(2) 男女別にみた状況別卒業者の割合

① 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、男子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が65.6%で最も多く、全国を10.4ポイント上回っている。次いで、専修学校（専門課程）進学者10.6%、その他9.2%、就職者等7.2%、専修学校（一般課程）等入学者6.9%となっている。

一方全国は、大学等進学者55.2%に次いで就職者等が19.8%で多く、東京都を12.6ポイント上回っている。次いで専修学校（専門課程）進学者13.7%、専修学校（一般課程）等入学者5.2%、その他5.1%となっている。

(全国との比較 図5)

全国との比較 図5 状況別卒業者の割合（令和3年3月卒業者 男）

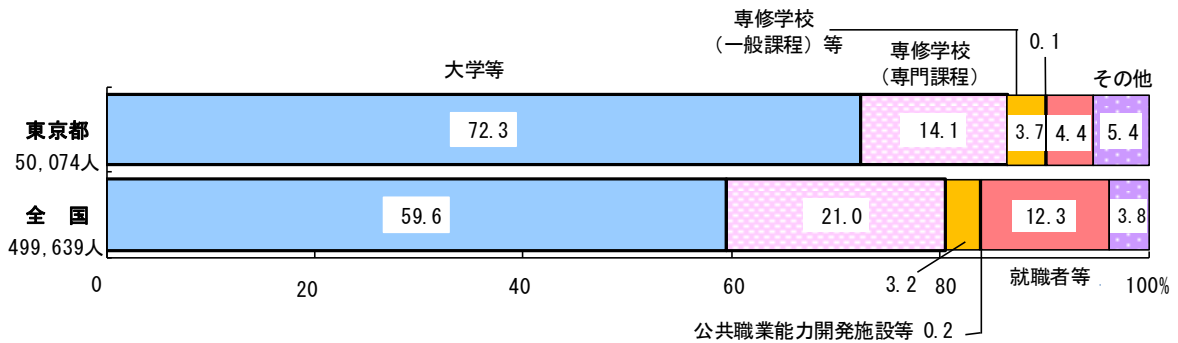


② 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、女子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が72.3%で最も多く、全国を12.7ポイント上回っている。次いで、専修学校（専門課程）進学者14.1%、その他5.4%、就職者等4.4%、専修学校（一般課程）等入学者3.7%となっている。

一方全国は、大学等進学者59.6%に次いで専修学校（専門課程）進学者が21.0%、就職者等12.3%、その他3.8%、専修学校（一般課程）等入学者3.2%となっている。

(全国との比較 図6)

全国との比較 図6 状況別卒業者の割合（令和3年3月卒業者 女）



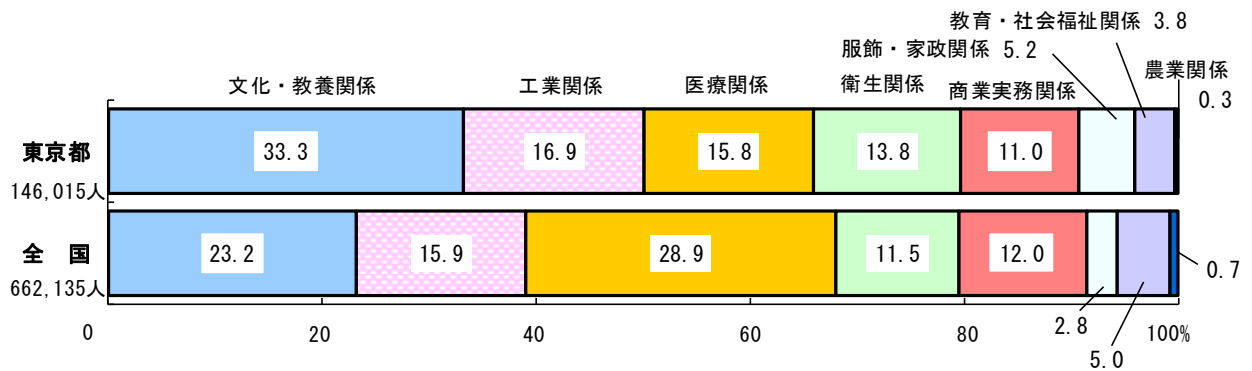
注1) 「大学等進学者」には大学・短大の別科、高等学校専攻科、特別支援学校高等部専攻科への進学者を含む。  
 注2) 「専修学校（一般課程）等入学者」とは、専修学校（一般課程）及び各種学校へ入学した者である。  
 注3) 「就職者等」には、常用労働者のうち有期雇用労働者及び臨時労働者を含み、進学しながら就職している者を含まない。  
 注4) 「その他」とは、家事手伝い、外国の大学等に入学した者、各項目に該当せず進路が未定の者と不詳・死亡の合計である。

## 5 専修学校

- 令和3年度の東京都の専修学校生徒数は146,015人で、全国の生徒数662,135人の22.1%を占めている。
- 専修学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「文化・教養関係」が33.3%で最も多く、全国の23.2%を10.1ポイント上回った。一方、「医療関係」は15.8%で、全国の28.9%を13.1ポイント下回っている。

(全国との比較 図7、付表I 2-6)

全国との比較 図7 専修学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和3年度)



## 6 各種学校

- 令和3年度の東京都の各種学校生徒数は19,919人で、全国の生徒数102,469人の19.4%を占めている。
- 各種学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「その他(外国人学校)」が73.5%、「文化・教養関係」が18.4%となっており、この2つの分野で全体の9割を超えている。全国は「その他(自動車操縦)」が34.5%で最も多く、「その他(外国人学校)」が28.4%、「その他(予備校)」が13.5%、「文化・教養関係」が9.8%の順となっている。

(全国との比較 図8、付表I 2-6)

全国との比較 図8 各種学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和3年度)

